

社外取締役メッセージ

2023年度からスタートした中期経営計画「未来共創プラン ステージⅢ」では、成果発揮と新たな挑戦をテーマに取り組んでいます。

企業の持続的な成長には環境の変化に柔軟に対応できるビジネスモデルを構築しつつ、それを支えるガバナンスの強化も必要です。

ちゅうぎんフィナンシャルグループの経営に、社外の観点からさまざまなアドバイスをいただいている社外取締役の中から福原取締役、清野取締役、人見取締役の三人にお話を伺いました。

ちゅうぎんフィナンシャルグループがもっとも取り組むべき課題は何と考えますか？その課題に対し、ご自身の経歴や知見を活かすのよう貢献したいと考えているかお聞かせください。



取締役 福原 賢一

中期経営計画の成長戦略に掲げている地方創生や地域応援活動を積極的に展開してほしいと思っています。岡山県を中心とした確かな地盤は、当社の強みだが地域経済には停滞感が見られ、そのまま放置すると当社の成長の足かせになりかねません。いくつかの萌芽は見られますが、「地域の魅力・ポテンシャルを引き出し」ているとは言い難いです。かつて、地域の中心的商業コミュニティであった表町商店街*に生まれ育った自分の郷土愛や人脈を礎に、ベネッセホールディングスでの直島、豊島、犬島開発の経験や人脈、野村證券での知見等を活かしてこの地域の創生にしていきたいと思っています。また、D&Iの一層の進展にD&I先進企業であるベネッセホールディングスでの経験を活かしていきたいと考えています。

* 表町商店街：岡山市北区にある商店街。南北約1.4kmにわたって店舗が並び岡山市で最大の商店街

ちゅうぎんフィナンシャルグループが取り組むべき課題についてご自身の経歴や知見をふまえてお聞かせください。



取締役（監査等委員） 清野 幸代

弁護士としての経歴や知見を活かして貢献できると考えている課題の一つは、コンプライアンスです。法令や社内規則の遵守にとどまらず、地域のリーディングカンパニーの構成員として、より高い意識や倫理観にもとづいて行動すること、互いの人権を尊重し、ハラスメントのない、働きやすく、働きがいのある職場を作ることが大切と考え、提言しています。

もう一つ重要な課題として、中期経営計画でも掲げられているダイバーシティ、多様な人材の登用、特に女性活躍があげられます。地方自治体の男女共同参画審議会委員や男女共同参画に関する講演活動の経験から、社外取締役就任以来、女性の登用を積極的におこない、多様な意見を経営に取り入れることが企業の成長、社会の発展につながることを強調してきました。

ちゅうぎんフィナンシャルグループの経営にどう貢献していくかご自身の経歴や知見をふまえてお聞かせください。



取締役（監査等委員） 人見 康弘

私は株式会社シマノに入社以来、釣具の製品開発設計一筋に歩んできました。開発型製造業の一員としてお客さまのご期待に応える製品を納期通り開発し、その良さをアピールして購入していただき、使って笑顔になっていただくことに邁進してきました。金融業に関して何ら知見のなかった私ですが、2022年6月より株式会社中国銀行の監査等委員を務めさせていただきました。メーカーとの企業風土のギャップに驚かされることも多々ありましたが、取締役会など会議の場でそれをお伝えすることも私の役目と思い議論させていただいております。



ちゅうぎんフィナンシャルグループのガバナンス強化への取組状況をどう評価されていますか？

持株会社化を契機に、グループ内部監査計画を策定し、経営陣の監査ニーズを収集して選定したテーマや中期経営計画の主要施策に関するテーマの監査に多く取り組んでいる点は評価できます。実直な社風も三線管理や監査の高度化には利するものと思われます。PwCによる内部監査の高度化への提言にも真摯に対応しようとしている点にも期待できます。

主要な社内会議の資料や議事録は社外取締役も閲覧可能で、当方の質問にもオープンに答えてもらえる等、透明性は高いと言えます。社内監査等委員の往査にも同行が可能であり、幹部のみならず女性従業員へのインタビューもできて、実態把握に極めて有用な体制を取っています。自分がこれまで経験してきた数社のボードよりもはるかに優れた透明性を持っています。ガバナンスの基礎は透明性だと思うので、当方としても有意義な貢献をしていきたいと思っています。

ステークホルダーへメッセージをお願いします。

歴史的にも中国銀行は、岡山地域になくてはならない金融機関でありました。少子高齢化や地方の空洞化という構造的な問題が先鋭化してくる時代の中で、この地域のポテンシャルや魅力を引き出して全国のモデルたる地域成長戦略が提示できるこの地域になくてはならないちゅうぎんフィナンシャルグループの一翼を担っていきたくと思っています。

ガバナンス強化に取り組んでいるちゅうぎんフィナンシャルグループをどのように評価されますか？

コンプライアンス最優先の経営姿勢を掲げ、グループコンプライアンスプログラムとして全社共通の基本項目を設定したうえ、各社の業務特性に応じて個別重点項目を設定し、真摯に取り組んでいる様子ですが、各社の組織、規模、業務内容等に応じて十分な取組みがされているかをさらに精査していくことが必要です。

女性登用については、取締役会の女性比率が20%になり、執行役員やグループ会社の取締役に社内の女性が登用され、銀行では昨年、管理職に多数の女性が登用されましたが、まだ不十分です。今後さらにワークライフバランスに配慮して女性活躍のための環境を整え、力強く推進していくよう引き続き提言してまいります。

ステークホルダーへメッセージをお願いします。

ちゅうぎんフィナンシャルグループの発展のため、多様な人材の登用、後継者計画についても、指名報酬委員会や取締役会で積極的に議論するよう促したいと考えています。従業員のエンゲージメントが向上し、会社と従業員が共に成長していくことを期して尽力いたします。

ちゅうぎんフィナンシャルグループに対するご自身の評価をお聞かせください。

ちゅうぎんフィナンシャルグループの誕生で、お客さまにとってより便利でお役に立てる体制が整いつつあります。未だ道半ばですが、職員一同、地域のみなさまに貢献できるよう、また信頼される企業であり続けるようベクトルを合わせて企業変革に取り組んでいます。取締役会や事前説明会では、議題や報告事項に関して詳しい説明がおこなわれ、フランクな議論ができるオープンな場になっています。しかしながら、決定事項や方針を会議に参加していない内外部のみなさまにお伝えすることが下手で、十分に理解され認知されている状況を作れていません。また、安心感のある企業運営は大きな武器ですが、取り上げた課題を解決するスピード感にも物足りなさを感じます。

ステークホルダーへメッセージをお願いします。

施策に対する実行力が問われる今、グループ会社全体がコンプライアンスを守り、企業ガバナンスを維持しながら、チャレンジすることと同時に健全なリスクテイクをとることが求められています。持株会社化のメリットを最大限に活かし、経営の効率化と質の向上を達成して、利益を拡大し続け、企業価値の向上を継続できるよう監査等委員として努めてまいります。